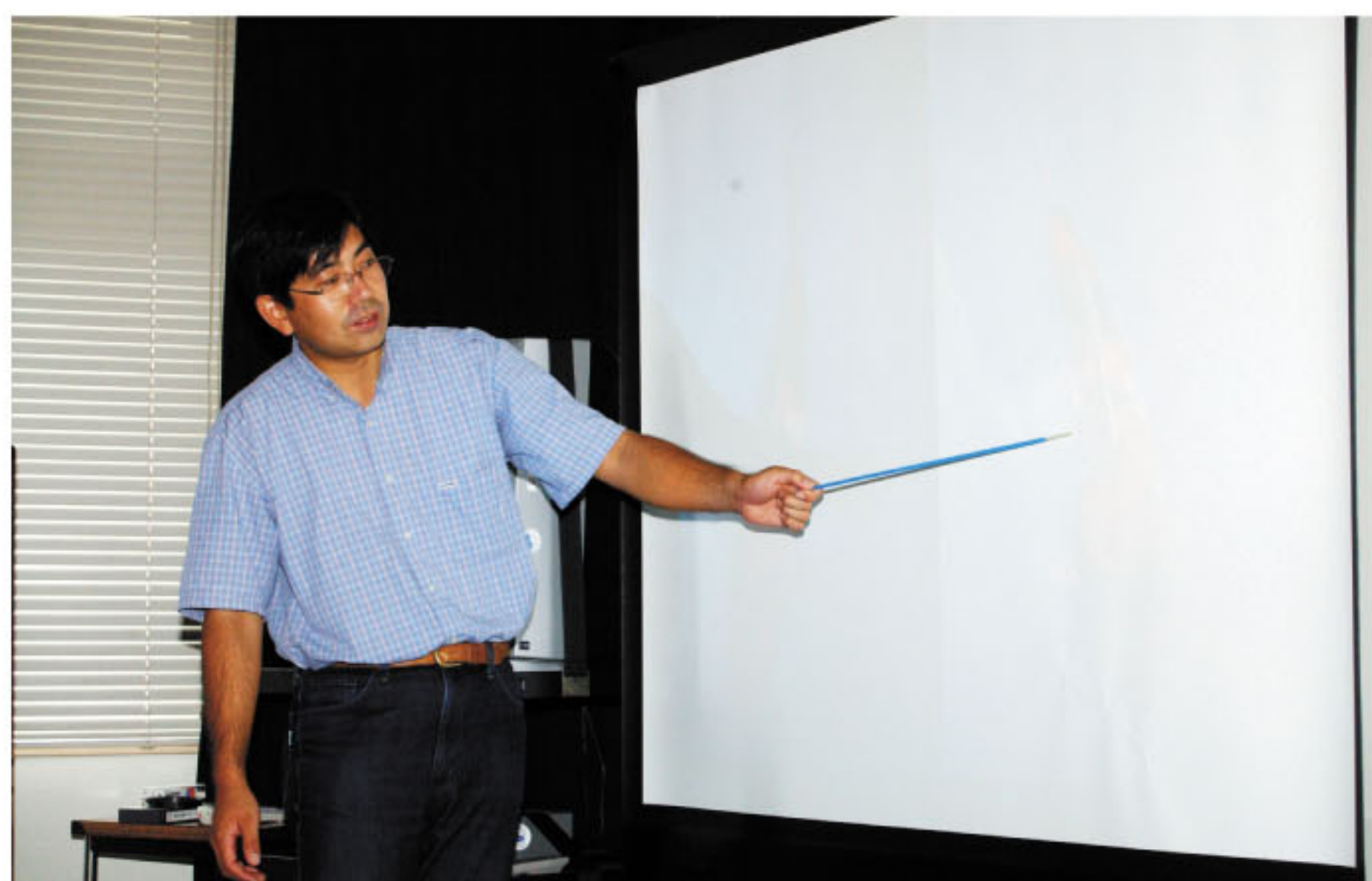




好評・大菊さんの錦鯉セミナー。今回は昭和編

昭和 三色



第2回

墨の変化を楽しむ

平成16年9月20日(祝)、横浜錦鯉の大菊拓朗氏が金沢産業振興センター(横浜市)で行った錦鯉セミナー、『昭和三色——墨の変化を楽しむ』のもようをお送りする第2回です。

今回は、関口産、野沢産昭和の変化を追います。

墨の変化を追う——

関口産昭和①

次の鯉は、新潟のやはり塩沢の鯉ですが、綺麗な昭和を作ること有名な関口さん(関口養鯉場)の昭和の変化を追ってみたいと思います。

まず、この昭和(⑤—A)ですが、これは2才の時の姿です。これは今日も参加していただいている笠原さんの鯉なんです、毛仔から育てた鯉です。関東大会で賞を取ったんですが、これはその時の写真です。

では、この昭和がその後どう変化してきたかということを見てみると、これが1年後の姿です(⑤—

B)。3才の姿になります。

見ていただくとわかるように、こ

れは墨がちよつと減ったんですね。この時(⑤—A)は多かったんですが、墨が少し減りました。で、白地がかなり出てくるようになります。このへんに(a)バーンと墨が被っていて、頭もバーンと墨が被って(b)ちよつと重たいなという感じだったんですが、良いように白地が出てきたんですね(c・d)。

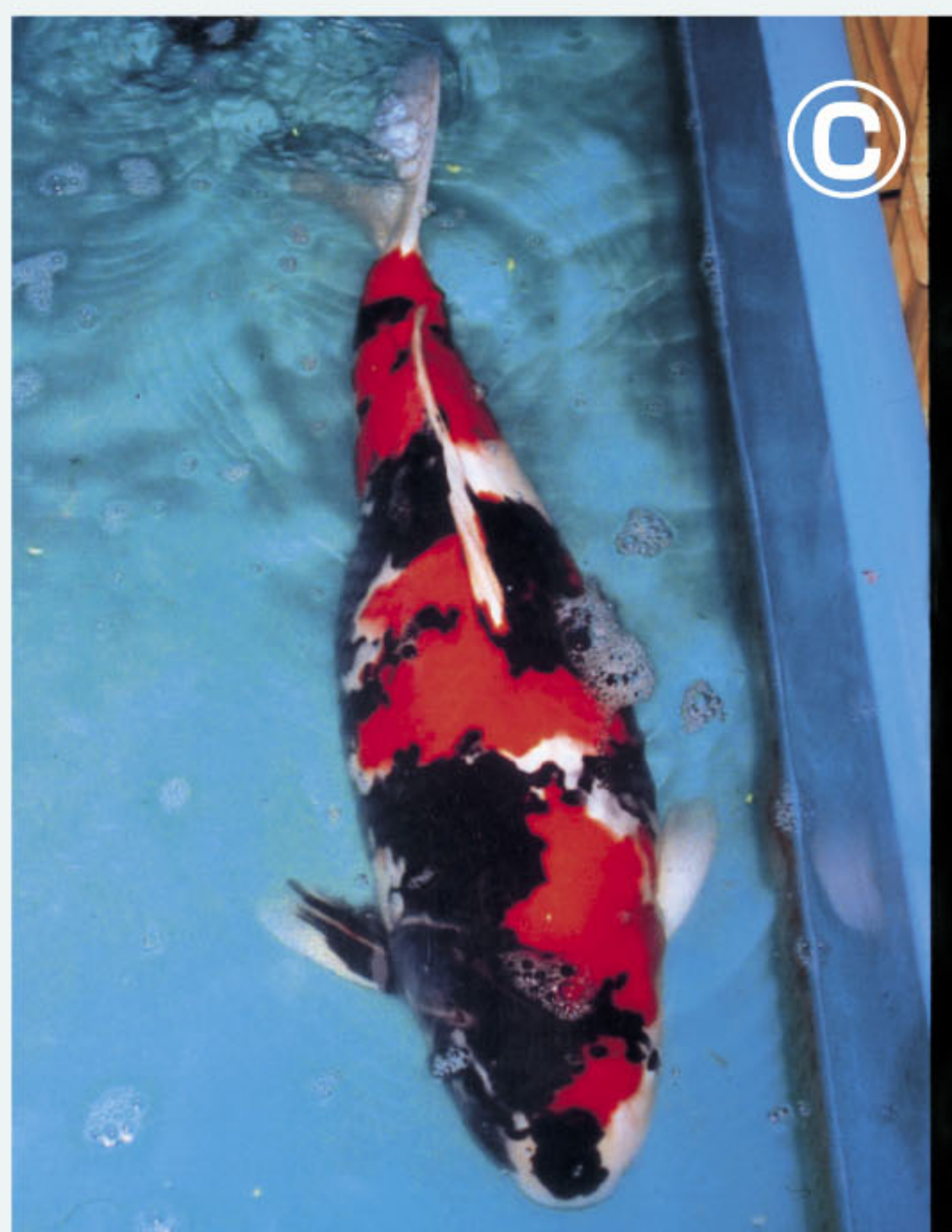
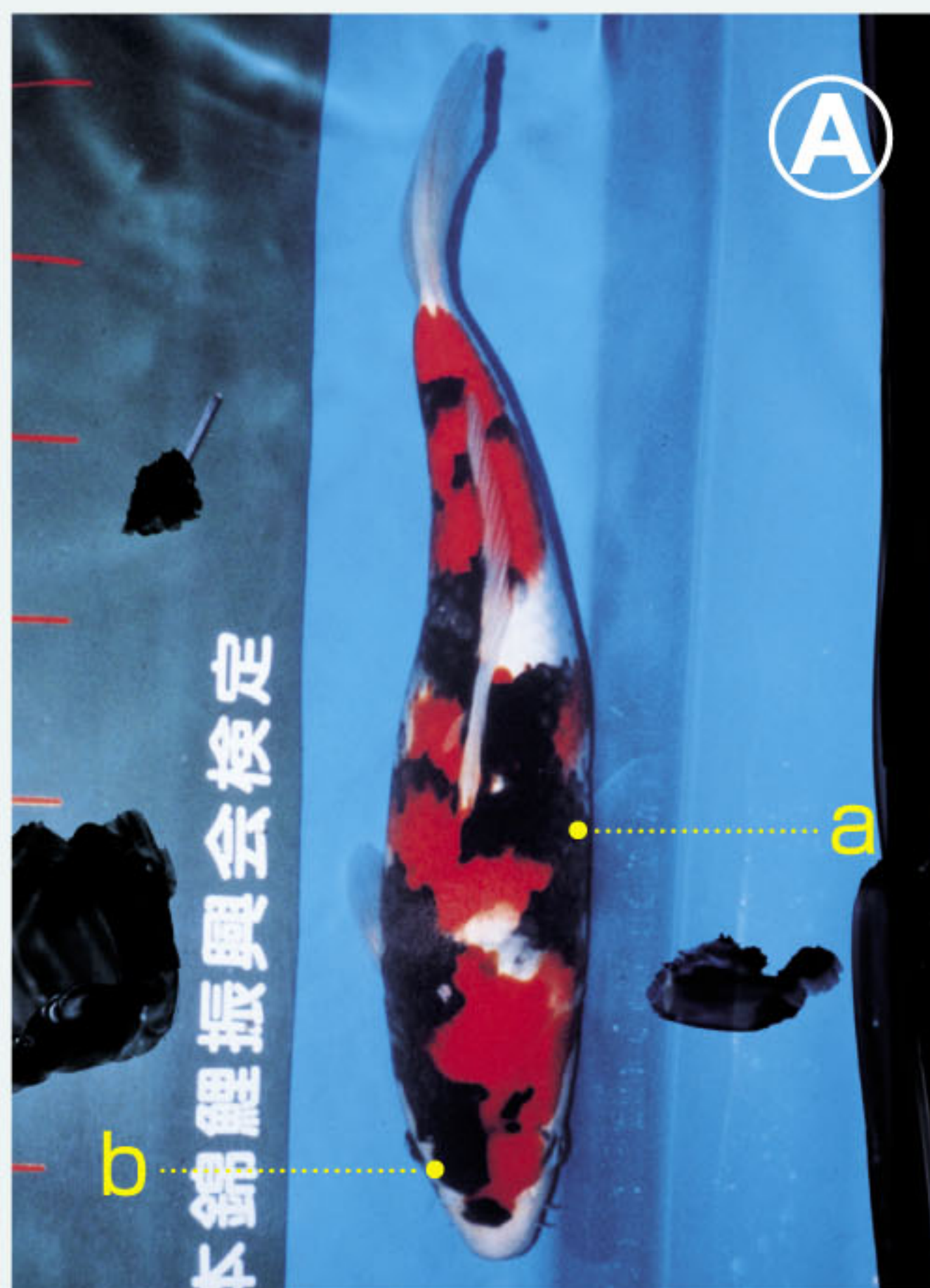
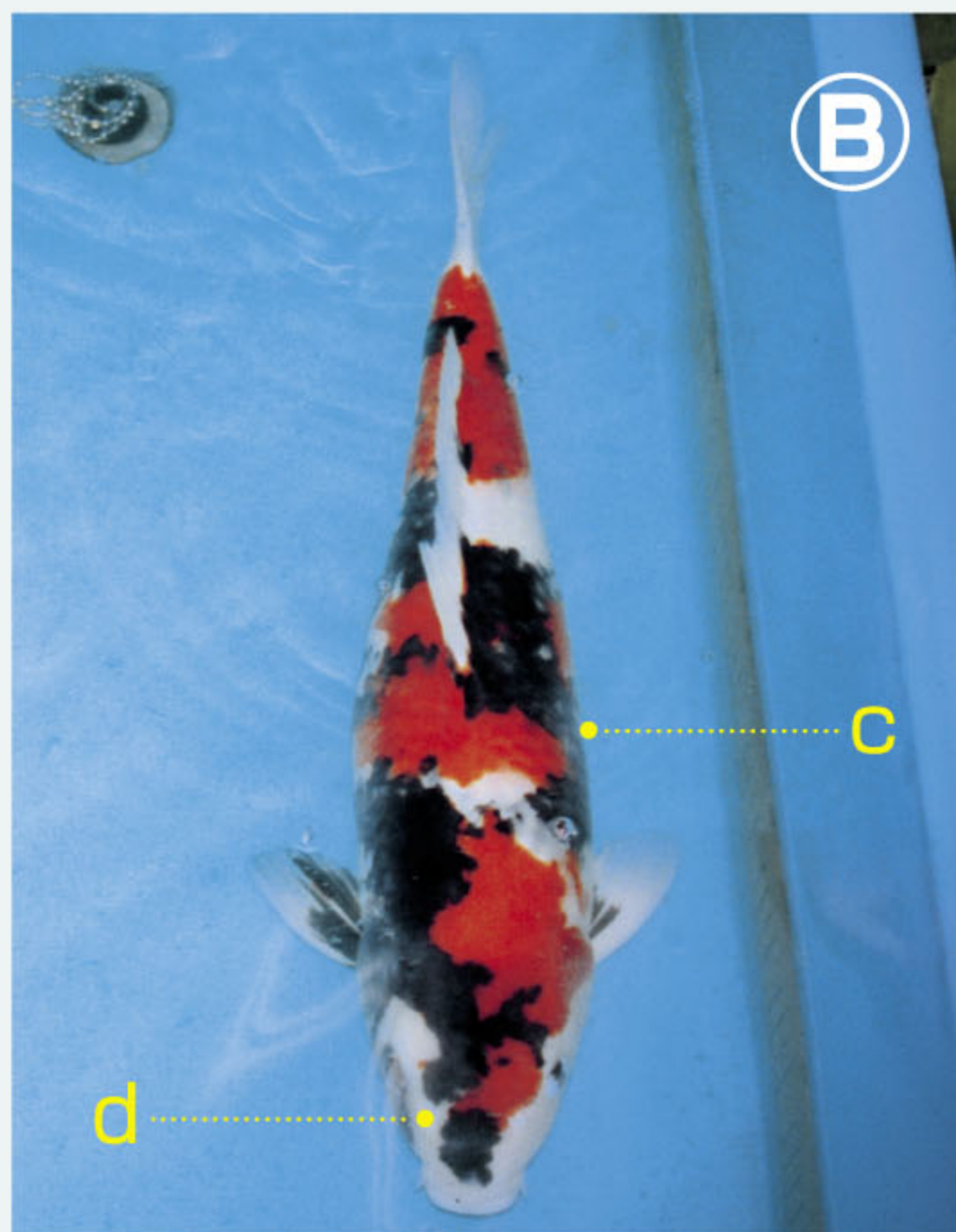
今まで見てきた鯉は、どちらかというと墨が増える傾向があったんですが、この鯉のように逆に墨が沈んで、いいところだけ鉢割れに墨が残

るという(d)、そういう変化もあるわけですね。

そして、これがさらにもう1年経つとどうなるかと言いますと、こうなりました(⑤—C)。また墨が2才の時(⑤—A)のように戻ったんです。2才の時にバーンと被っていた墨が戻って、いったん沈んだ墨がまたはつきり濃く出てきて、ボリュームもついて、緋盤も赤くなりました。

で、このような変化はどういうことかと言いますと、急激に鯉を伸ばした時に、往々にしていったん墨が引くということがあるんですね。紅白の場合だと、急激に伸ばした時に緋が無くなっちゃって、後から戻るということは絶対にはないんですが、昭和の場合はいったん墨が引いて縮んでも、こうやって環境さえ整えば戻ってくるという、一つのいい例だと思います。

2才の時は綺麗だったのに、この時(⑤—B)はちよつと墨がボヤボヤしちゃって、「もうこの鯉は終わリかなあ」と思ったのが、1年経ったらこうやって締まって出てくるという……ですから昭和の場合はこういう可能性も秘めているので、おも



写真⑤／新潟・関口産

しろいなあと感じます。

墨の変化を追う

関口産昭和②

次も同じ関口さんの昭和で、2才からの変化を見ていきたいと思えます。

これが2才の時の写真ですね (6—A)。23cmぐらいです。

これは私が3万円で売った鯉です。鯉屋さんを始めて最初の年に売った鯉なんですけど、この鯉が何と国魚賞を取ったんです。どういうふうになったかと言いますと、その後1年経ったらこうなったんですね (6—B)。3才になったらこの姿に

なりました。

墨が沈んでいてあまりなかったところ (a・b) が出てきた (c・d) のと、緋盤が揚がってはつきりしてきました。で、この時は関東地区の品評会で優勝を取りました。

そして翌年の春、4才になった時がこれです (6—C)。この時に、多摩の品評会で総合優勝を取ったんです。鉢の墨がなくなってきた (e)、白地も綺麗に抜けてきて……品評会用という感じで、急激には大きくならなかったんですが、仕上がってきました。

それで、これが国魚賞を取った時



真剣に耳を傾ける参加者

の姿です(⑥—D)。45部ですね。鉢の墨がはつきりと出て、「八の字」になっています(f)。口墨(g)もいいところで決まって、あといいののは、手の元黒がはつきりと決まってきました(h)。

この鯉(⑥—A)が、この鯉(⑥—D)になったわけです。同じ鯉です。2年飼ったらこうなるというのが予測できた人はラッキーなわけですね。ですから、昭和というのは誰にでもチャンスがあるというおもしろさを、この鯉は教えてくれたんじゃないかなと思います。今はこの鯉は親鯉として使われているそうです。

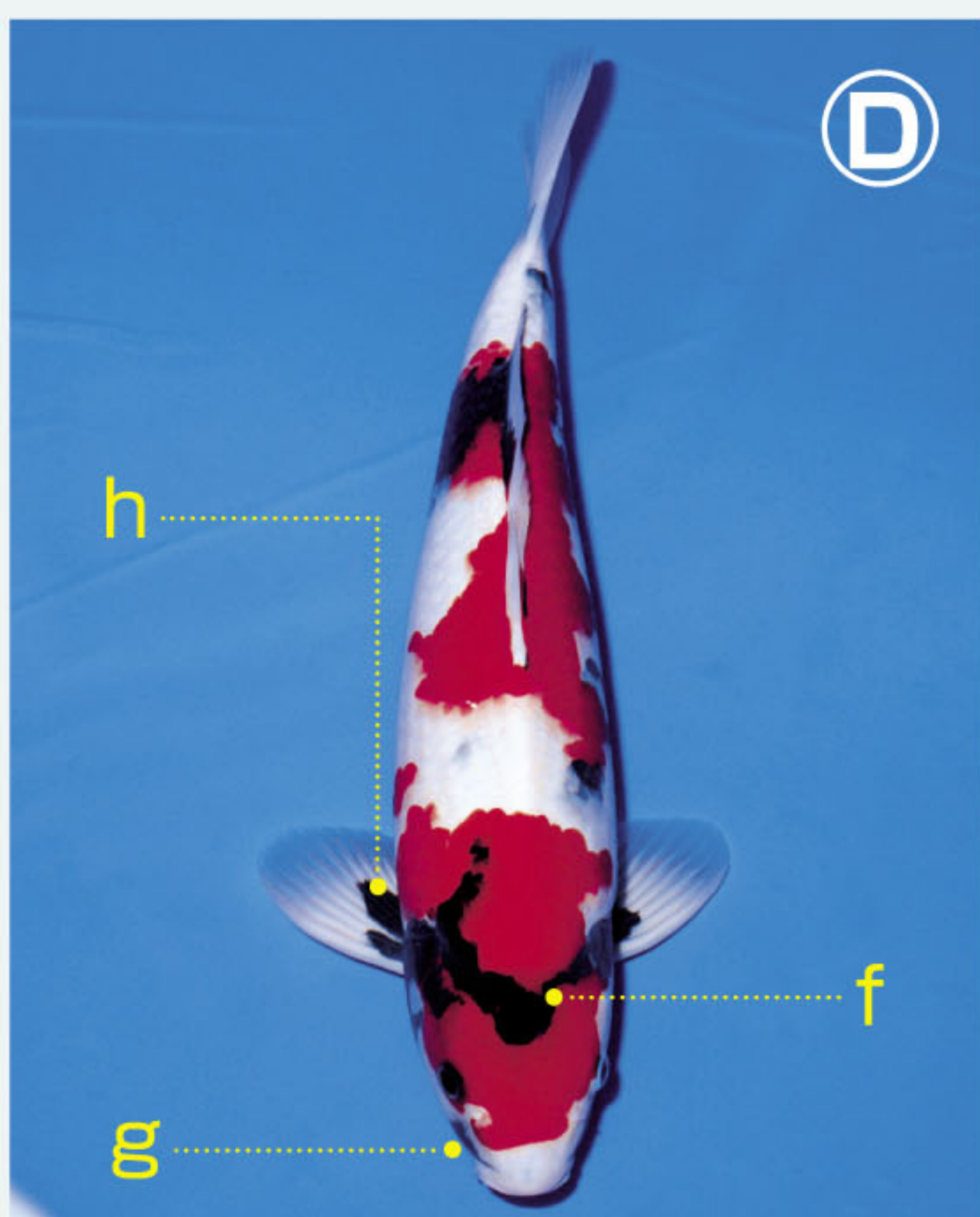
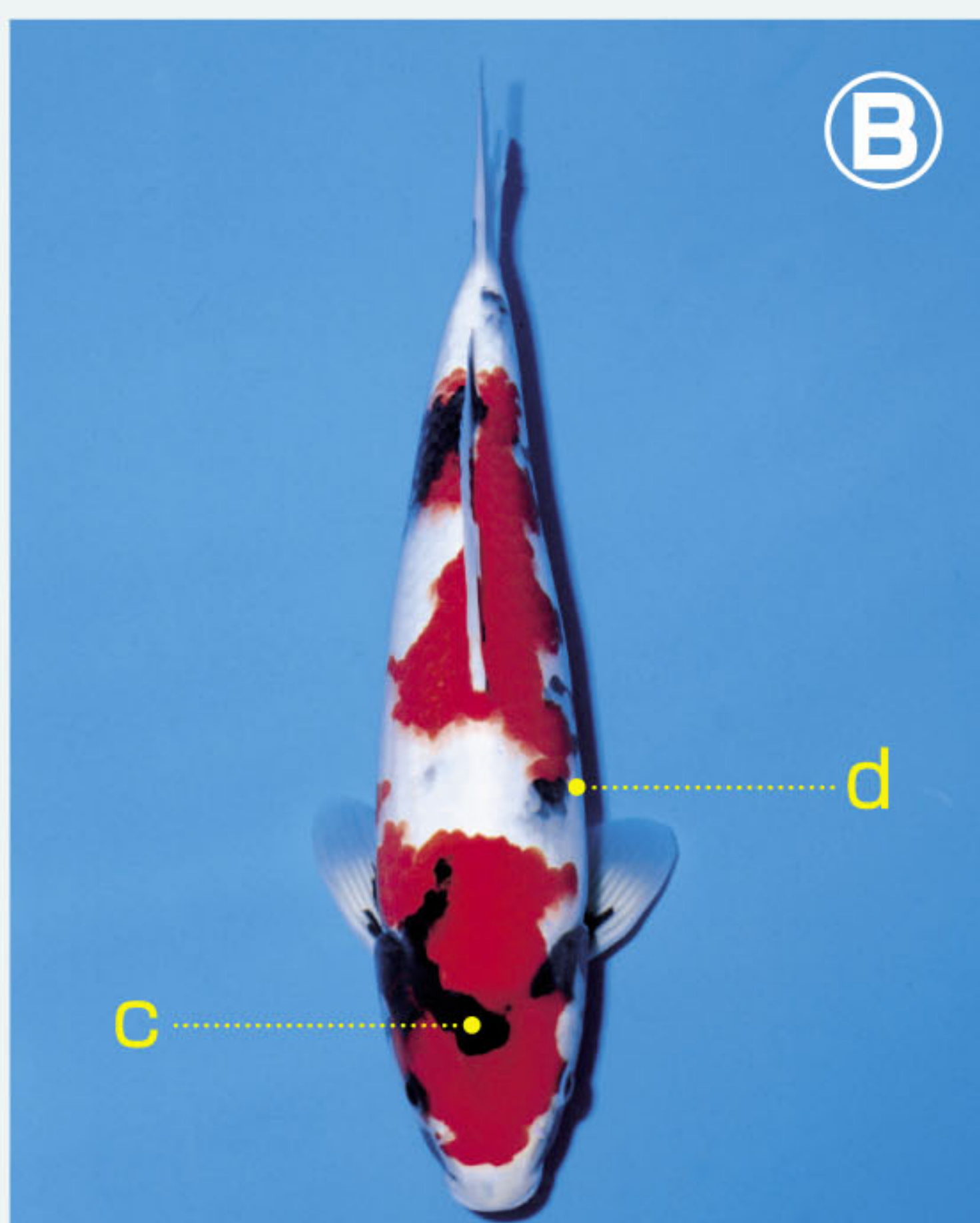
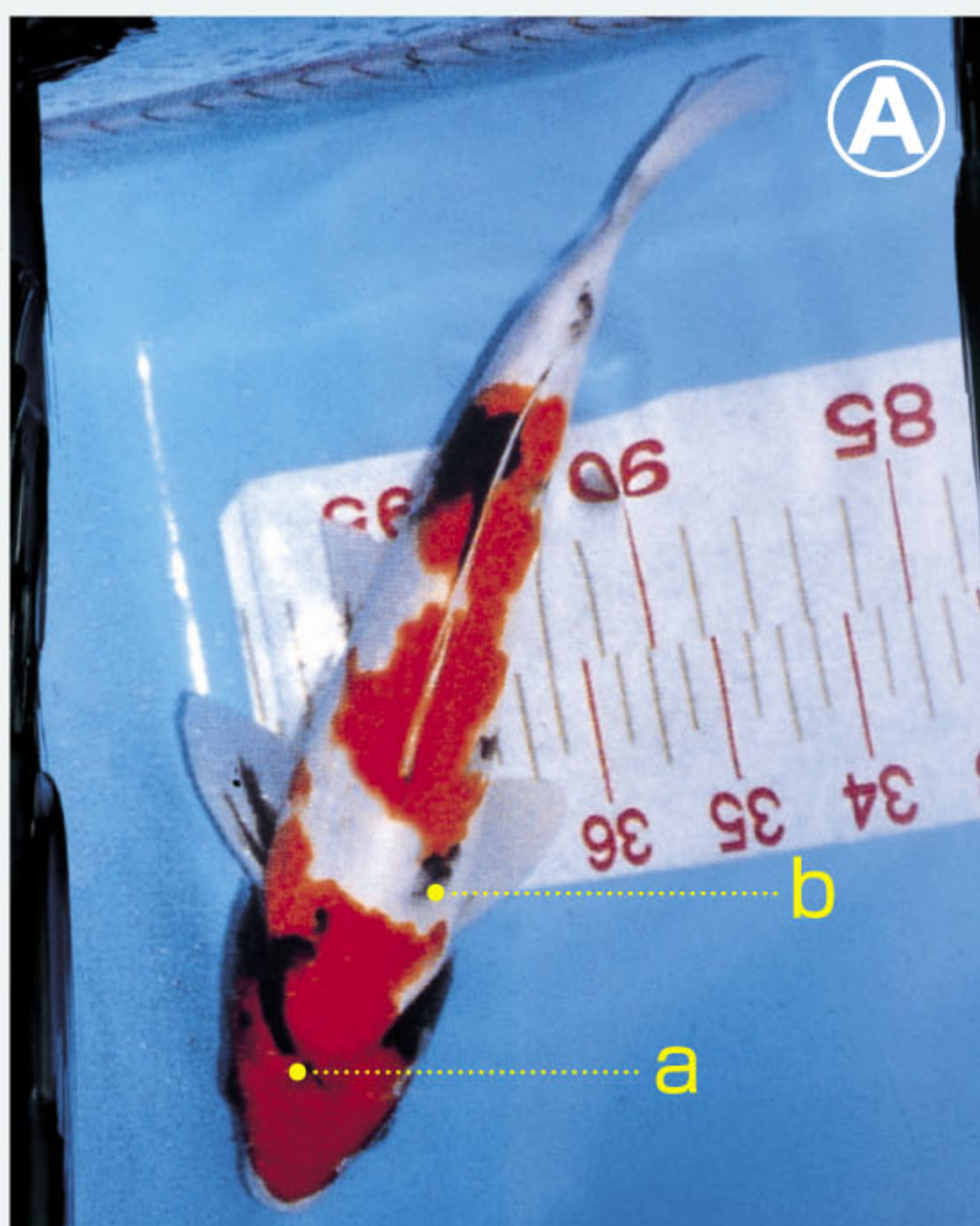
墨の変化を追う—— 野沢産昭和

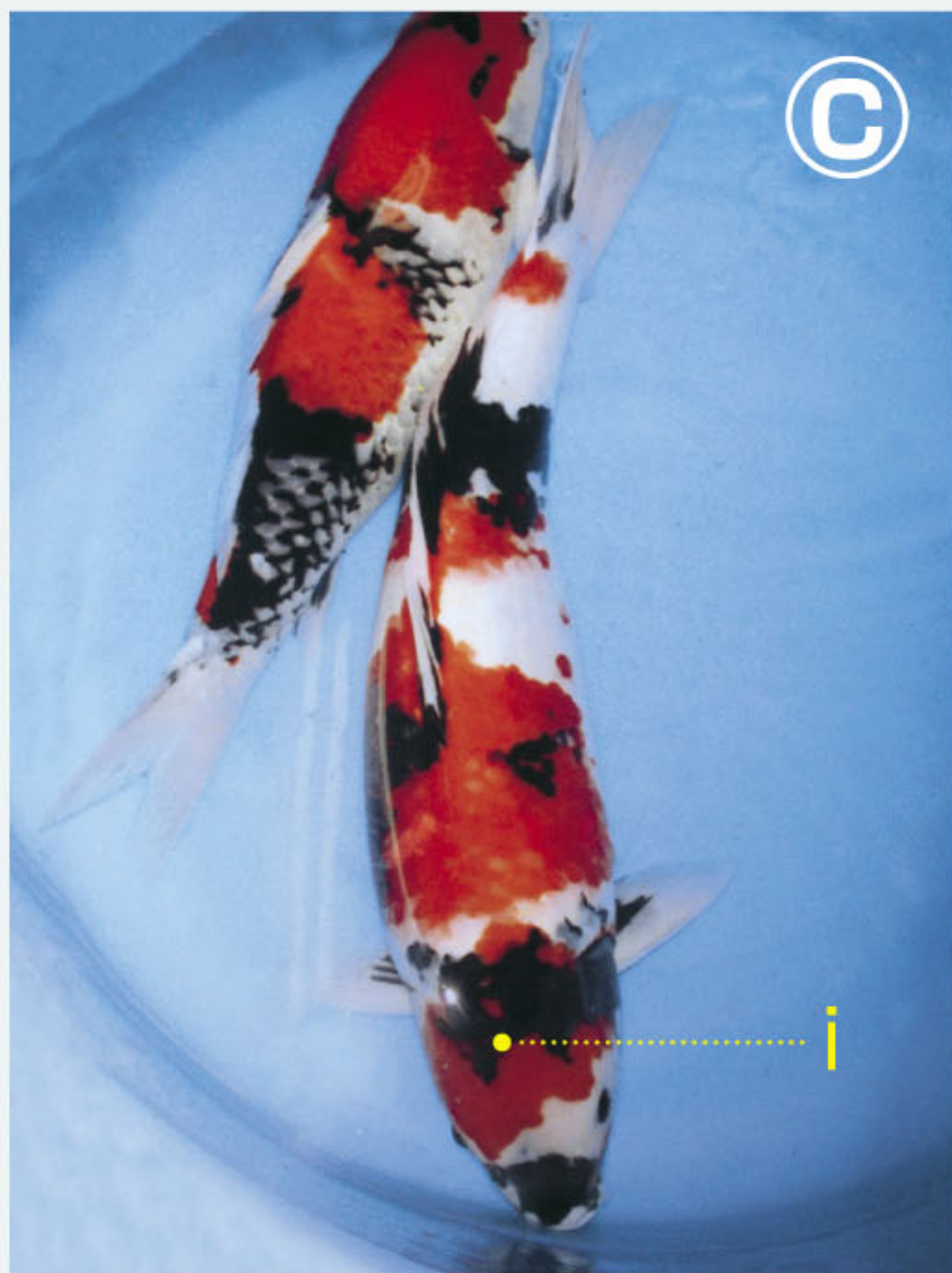
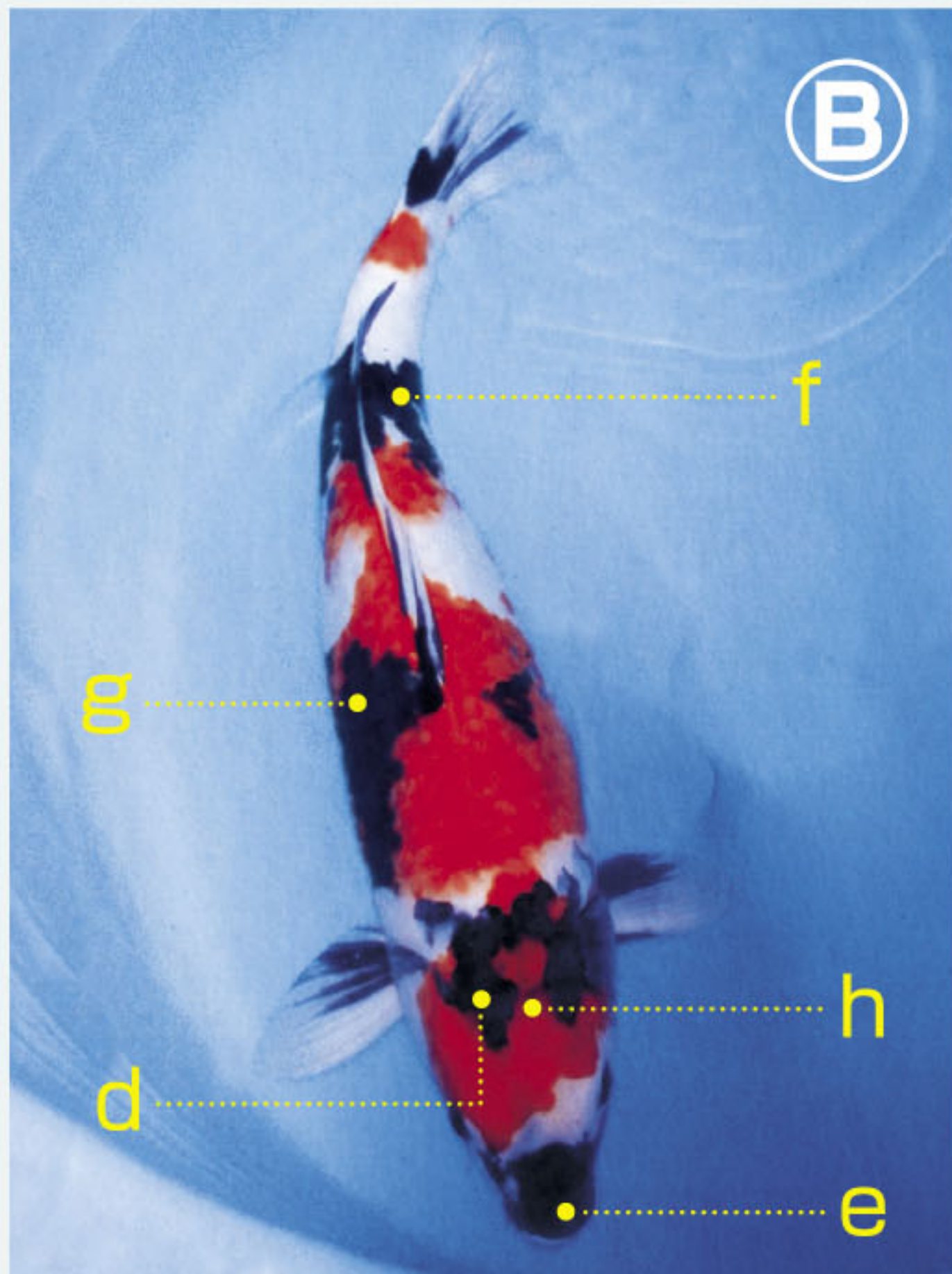
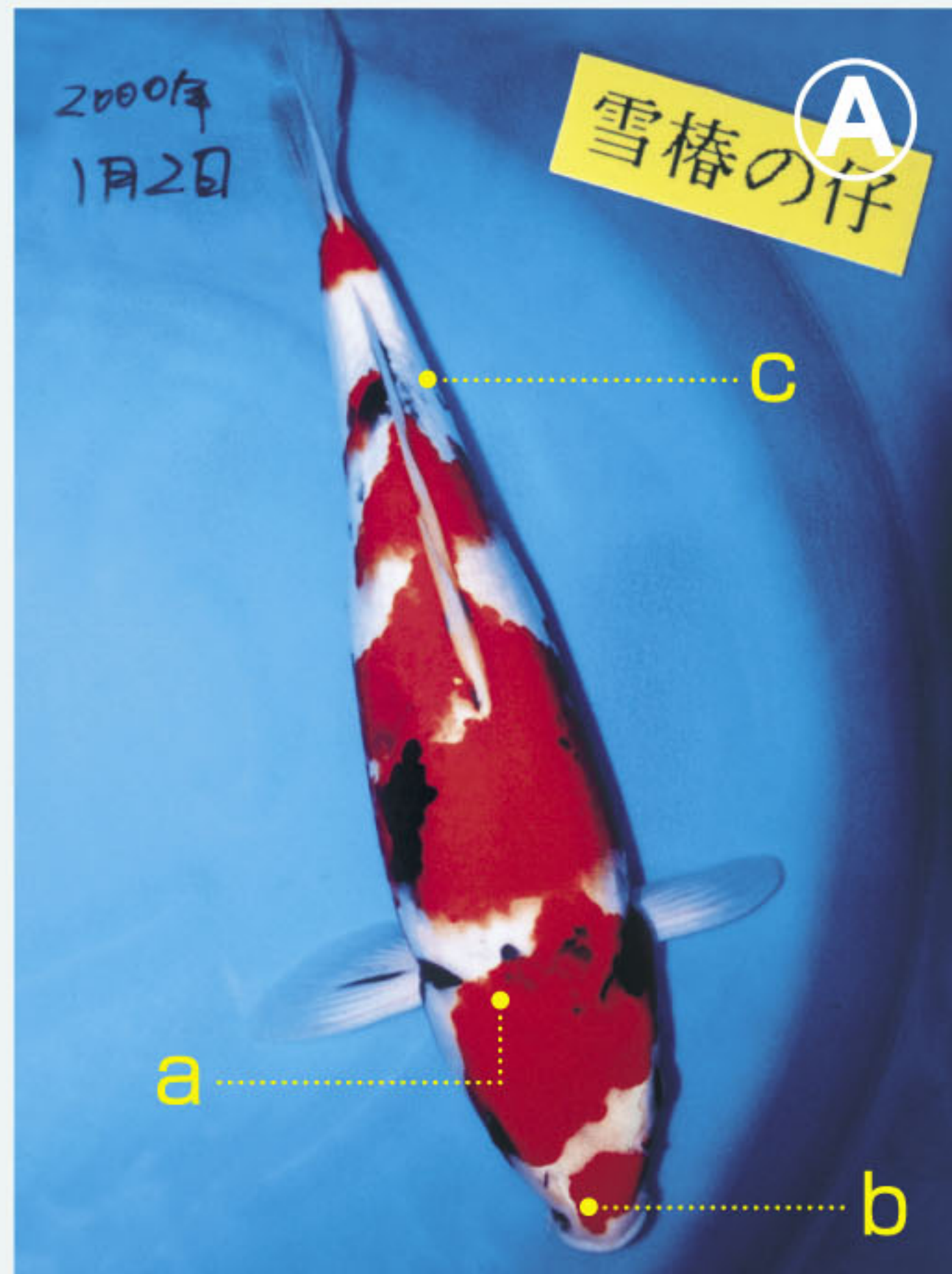
次は、関口さんと同じような系統を使っている、野沢錦鯉センターという長野県の野沢温泉にある鯉屋さんの昭和の変化を追っていききたいと思います。

「雪椿」という名称で呼ばれている親鯉(写真イ)の子ですが、これも自分が気に入って、野沢温泉までひとつ走りして買ってきた鯉です。これは2才の時の姿です(⑦—A)。

この状態だと大正三色かなというような、昭和にしてはちよつと墨が

写真⑥／新潟・関口産





足りないんじゃないかと皆さん感じるかと思いますが、これを1年飼い込みますと、こうなるんですね（⑦—B）。

同じ鯉です。頭のところの沈んだこの墨（a）がはっきりと出てきました（d）。そしておもしろいことに、これはいじったわけじゃないで

すけど（笑）、この口墨（e）が綺麗に口紅（b）をカバーしてしまっています。

それとあとは、後半のところにある、全く沈んでいてうっすらとした水色のこの墨（c）がはっきりと出てきて、昭和らしくなりました（f）。もうこうなれば豪快な昭和という感じで見られると思います。こも（g）出てきました。という感じで大化けした鯉ですね。こうなるから昭和はおもしろいと……。

で、それがまた1年経つとどうなるかと言うと、こうなりました（⑦—C）。

これ（⑦—B）からこれ（⑦—C）ではそんなに急激な変化はないことが、見ていただいてわかると思います。鯉の体が大きくなってきたので、顔の幅が出てきたり、体の幅が出てきたり、鯉としての大人びた格好になってきた、その変化ですね。墨の模様の位置というのはほとんど変わっていないですね。ここの（h）、えぐれていたような模様になっていた部分が完全に墨で覆われた（i）、そのぐらいです。完全に埋まったと。これも今、関口さんのところで親鯉として使っているそうです。